



名古屋大須ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

NO 886



超私の奉仕

SERVICE Above Self

2005～2006年度

R.I. 会長

カール・ヴァルヘルム

ステンハマール

<本年度クラブ会長方針>

「チャレンジ」

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
 会長 草野 勝彦 URL <http://www.nagoya-osu.org> Email office@nagoya-osu.org
 幹事 鬼頭 茂成 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337
 事務局 460-0008 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル 6F

会員増強および拡大月間 第108回例会

於 名鉄犬山ホテル
2005年8月10日(水)

出席計算数 65名中51名出席
出席率 78・46%

前々回出席率 95・38%

ロータリーソング

「手に手つないで」

指揮者 岡村 隆徳

ピアノ演奏 富板 玲子

ゲスト

元ロータリー財団奨学生

カオリ ソーファー ヤスタさん

ご主人

ゲルノット ソーファーさん

元受入青少年交換学生

レヴェント アーパチャー君

受入青少年交換学生

クリステイナ マッキントッシュユさん

ご家族 46名



会長から プレゼント贈呈

ニコソックス

関係者の皆さん、「苦勞様です。」

山田 邦彦 伊藤 清次

草野 勝彦

かおりさん、お久しぶりです。ソーファさん、よろしく。吉田 隆彦

親睦委員会の皆さんお世話様です。

加藤 正樹 堀田 泰造 横井 衛

住田 正夫 伊藤 与則 酒井 修

川畑 博敬 木村 光徳 鈴木 洋

親睦委員会の皆さん「苦勞様です。花火を楽しみましょう。」

鬼頭 茂成 岡部 快圓 佐藤 彰

北川 晶邦 横内 恭 浅井 隆宣

親睦さん、「苦勞様です。」

柴岡 正将 佐々木 功

花火楽しみにしております。

神野 邦利 岡村 隆徳 尾上 昇

花火楽しみにしてました。

大原 敏正 田崎 雅二 新沼 操

いい夏の思い出ができました。ありがとうございます。

吉田 明夫 小澤 幸男

今夜は楽しみです。

花火楽しみです。親睦委員会の皆さん

ありがとうございます。

花火楽しみです。

近藤宏一郎 高木 政義

鶏にならなくない！

浅野 彰

会長挨拶

草野 勝彦

今晩は。

連日三五度を超す大変暑い日が続

いております。

今日は夜間例会を開催しましたと

ころ、会員元ロータリー財団奨学生

の保田さんご夫婦はじめ来賓の方、会

員のご家族等100名を超える方々

がお集まりいただきありがとうございます。

又、ロータリーは、新年度は七月か

らですが、新年度早々の親睦例会にも

拘らず、親睦委員会の皆様、本当にこ

苦勞様です。

今日は、ホテルの部屋からの花火を

楽しんでいただきたいと存じますし、

会員の皆様の親睦を深めていただき

たいと存じます。今日このような例会

を開催できましたのは、当ホテルを例

会場としています大山西ロータリーク

ラブのご協力のお陰ですので、回ロー

タリークラブに感謝申し上げます。

又、ロータリー財団奨学生としてド

イツに派遣しました保田さんが、ご主

人と一緒に今日の例会に参加してい

ただいております。今日は十分楽しん

で下さい。

今日は、親睦例会でもありますので、

堅い法律の話は致しません。花火を楽し

んでいたいただきたく存じます。

夏の家族会

300発の花火とファイナーの夕べ

親睦活動委員長 前田 隆久

心配していましたが天気も晴れて、無

事、300発の花火を鑑賞する事が出来



ました。今回、花火を間近に見て、あ
 の、圧倒的な音と、光によるパフォー
 マンスには、大きな感動すら覚え、し
 ばし、童心に戻って見えていました。
 スケジュールがタイトな中で、すこ
 い混雑にも関わらず、皆さんのご協力
 により、無事終了した事を改めて、御礼
 申し上げます。
 今後とも、親睦活動に、「ご理解」ご協
 力賜りますようお願い申し上げます。



☆会員にならなくて気持ちの上では何か変わられたことはありますか？

「私がロータリアンになった時には子どもはずっと大きくなつていまして、子どももロータリーに連れてきて家族でロータリーを enjoy する」という事は出来ませんでした。子どもが喜んで付いてくる頃にはロータリアンになった方が良いと思います。

家族全員で楽しむのがロータリーのよい所ではないでしょうか。

「ロータリーのバッチを付けていると、全くロータリアンではないかと思ってしまう。自分自身に自ずからなるものがある気がして。」

「ロータリーの例で、或いは会館で他の職業の会員と知り合えるという事はほぼないことだと思います。」

「ロータリアンはロータリーが好きでなければ行けません。性格というものがロータリーが合わない考え方の人があります。そういう人は長続きしません。」

☆10数年、セカンドポイント、イン

フォームドコンセントの言葉が医療現場でよく使われますが、そういう新しい流れに対してのコメントを。

「インフォームドコンセントは、患者さんは本来の事を知る権利がある。医師は説明する義務があるという事です。が、わいわいが医師になった時代には、戦後で結核患者があらわれており、私も若い医師も、一生懸命勉強して結核という病態について患者さんに懇切丁寧に説明し、結核という病気を十分理解して貰う、自分から進んで治療を一生懸命してもうようようにする。患者も自分から進んで止めるように努力して貰うようになったもので。そこまで努力しなかった医師もあつたんですよ。したいと思つても、忙しさのために、説明を後回しにして治療のみをしていた医師もあつたかも知れません。それではいけない、患者さんには、よく病態について、病態について十分説明をして、治療について理解・納得の上で行うという事です。十分説明する時間を持ち合わせるなかつた医師もあつたかも知れません。医療というものは、それではいけないという事です。」

インフォームドコンセントで、もう一つ、病態について説明するということだけでなく、癌とか、生死にかかわる重大な病態・事態にたいする対応の問題があります。米国では、国民性がらでしようか、すべて患者本人に説明

するということになつてきているんですよ。しかし、日本では、患者さんによつて本人に直接、または家族にのみとか、家族と一緒にとか、その患者さんに則した方法を選びたいというふうになつていってますが、趨勢としては、本人にはっきり説明するというふうになつていってます。

死にかかわってきますと、色々の問題が派生してきます。非常に難しい問題です。世の中には色々な人がいますので、訴訟など、色々な問題がおきてくるかわりませぬ。

何年前かに、毎日新聞半頁の大きな報道された事がありますが、私は、懐性に通院するようになった患者さんには、元氣な間に折を見計って、本人直接に、仮に癌が見つかった時直接自分について欲しいか、自分では到底聞くと元氣はないの、べ、べ、べ、べ、べ、誰かに話してほしいかを聞いて置くことになってます。そして、その統計を学会で発表した事があります。

最近では自分で聞きたいという人が増えているように思います。そのうちに米国のようになるかも知れないと思つています。しかし、死の病を宣告された患者さんの苦渋は並一通りのものではない、宣告された人にかかわらず、いろいろなものがある事を医師は知っていない必要ありません。そして、宣告後は患者さんをつかさどるオローシなければいけません。

セカンドポイント、患者さんによく説明し納得して治療をつけてもらうために、他の医師から、セカンドポイントを聞き、よく説明を受けた方がよい場合があるという事です。あらゆる病態に、治療方法に選択肢が考えられる時に適応します。

医師は、一つの病気を治療する場合その病態を治療するには、色々な方法・手段があるか、今マスコミでよく出る、エビデンスに基いた治療(文献的に推奨される)を検討した上で、最適と考えられる治療法を推奨します。患者さんにその旨を説明して治療を始めます。この場合でも、一つの方法があり得る場合は、説明の上選択してもらいます。

われわれが治療に疑問が生じた場合は、病院の専門医にセカンドポイントを仰ぎます。

また、癌の治療、心臓の手術あるいは脳の手術等生命にかかわる場合には、われわれがして推奨できる先生機関を紹介しますが、患者さんが納得出来ない場合は、適宜と思われる先生・機関がある場合は、患者さん納得の上で紹介いたします。適宜な先生・機関が分からない場合は、私共で連絡できる専門医に、その旨をお話して、セカンドポイントの先生を紹介して頂きます。

又、患者さんが自分の受けている治療に疑問が生ずる場合もあるでしょう。そういう場合は、自分の主治医にその旨を話し、説明を受けて下さい。

その上で必要ならばセカンドポイントの先生を紹介してもらつて下さい。」

☆生きていて良かったと思つた瞬間は？

「戦時中は大学生でした。戦時中では本も手に入り難い時代でしたが、有り金をはたいて哲学書・文学書を買いました。たり、友人の兄のを借りたりして読みあさっていました。人格の確立とか、自由の貴さを感じていました。終戦の前日8月4日に、大学の前の鶴舞公園を散歩して、空から雨が降ってきました。

『日本は負けた。戦争は終わった。』と書いてありました。

負けたのは致し方ありませんが、半年たては卒業、直ちに戦地に向かい戦死という運命を覚悟していました。か、自由の貴さを感じていました。終戦の前日8月4日に、大学の前の鶴舞公園を散歩して、空から雨が降ってきました。

『日本は負けた。戦争は終わった。』と書いてありました。

「戦時中は大学生でした。戦時中では本も手に入り難い時代でしたが、有り金をはたいて哲学書・文学書を買いました。たり、友人の兄のを借りたりして読みあさっていました。人格の確立とか、自由の貴さを感じていました。終戦の前日8月4日に、大学の前の鶴舞公園を散歩して、空から雨が降ってきました。

『日本は負けた。戦争は終わった。』と書いてありました。

負けたのは致し方ありませんが、半年たては卒業、直ちに戦地に向かい戦死という運命を覚悟していました。か、自由の貴さを感じていました。終戦の前日8月4日に、大学の前の鶴舞公園を散歩して、空から雨が降ってきました。

『日本は負けた。戦争は終わった。』と書いてありました。

負けたのは致し方ありませんが、半年たては卒業、直ちに戦地に向かい戦死という運命を覚悟していました。か、自由の貴さを感じていました。終戦の前日8月4日に、大学の前の鶴舞公園を散歩して、空から雨が降ってきました。

『日本は負けた。戦争は終わった。』と書いてありました。

負けたのは致し方ありませんが、半年たては卒業、直ちに戦地に向かい戦死という運命を覚悟していました。か、自由の貴さを感じていました。終戦の前日8月4日に、大学の前の鶴舞公園を散歩して、空から雨が降ってきました。

『日本は負けた。戦争は終わった。』と書いてありました。

負けたのは致し方ありませんが、半年たては卒業、直ちに戦地に向かい戦死という運命を覚悟していました。か、自由の貴さを感じていました。終戦の前日8月4日に、大学の前の鶴舞公園を散歩して、空から雨が降ってきました。

事務局長 柴田祐依さん 退職挨拶

6年間勤めさせて頂き、他では決して経験の出来ない多くのことを学び、皆様には折にふれてお話しして頂いて感謝申し上げます。皆様のご健康とご発展を祈念致しまして挨拶とさせていただきます。お世話になりました。

ブリテン委員会

川口 小折・黒柳 一男・大原 敏正

川口 小折・黒柳 一男・大原 敏正